

魚津市定例記者会見 1月

日時：平成27年1月5日（月） 午後1時30分～

場所：市役所第一会議室

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、北陸中日新聞社、朝日新聞社、富山テレビ、NHK、NICE TV

市当局出席者：市長、副市長、教育長、企画総務部長、産業建設部長、民生部長、企画政策課長

1. 市長からの説明事項

(1) 平成27年度魚津市重点施策

① 少子化・定住対策について

どうしても歯止めのかからない少子化対策については、今年は国のほうでも新しい施策が実施されるようだが、魚津市が抱える課題をきちんと見極めながら少子化・定住対策に取り組んでいかなければならないと思っている。労働力の中心となる若い人たちが少しでも魚津市にとどまっていたくための施策が中心になると思われるが、雇用対策や景気回復は市単独で施策を実現するのは難しい面があるものの、産業界などとも連携を密にしながら働く場があり安心して暮らせるまちづくりを重点施策とする。

かねてから取り組んできた学校規模の適正化については、少子化とも関連するが、27～28年度は子ども達の教育環境を整える大きな節目の年となる。

② 防災対策について

昨年は全国各地で大きな自然災害が発生し、魚津市でも一昨年末の本町地内での火災、昨年7月の豪雨災害もあったことから、重点施策として災害対策を市民の皆さんとともに再確認しなければならないと思っている。ハザードマップを再配布しながら地域振興会を中心にした自主防災組織の強化を図らなければならない。市が抱えているリスクについて市民の皆さんと情報の共有を図っていきたい。

③ 北陸新幹線対策

あと2か月ほどで北陸新幹線が開業するが、かねてから懸念されている首都圏への人口流出やストロー現象などが起きないように配慮しながら、魚津市へ多くの人を訪れる仕掛けづくりを、開業と合わせて進めていきたい。観光といっても新たに観光施設を整備するのではなく、魚津市の海から山までの豊かな自然環境を体感していただき、また来たいと思ってもらえるようにアピールしていければいい。あいの風とやま鉄道も同時に動き出す。学生や通勤者の足としての利用はもちろんだが、移動手段としての公共交通の整備と市民バスの充実も図ってまいりたい。市民バスも長い時間をかけ定着してきた。これから次の新しい段階へ入っていく年になればと思っている。

(2)宮城県塩釜市からのお礼

震災からの復興支援で平成24年度から塩釜市に職員を派遣しており、年末に塩釜市長からお礼のメッセージと大漁旗が送られてきた。これまでに職員を3人派遣しているが、塩釜市民との交流も生まれてきており、職員派遣をきっかけに新しい交流が生まれればいい。

2. 質疑応答での市からの説明内容

「人口減少対策について」

《記者からの質問》

以前、人口減少対策にあたり専門の部署を立ち上げるという話があったが、詳細をお聞かせ願いたい。

《回答》

市長を本部長とする人口対策会議を昨年の11/13付で設置した。組織としては行政経営戦略会議とよく似た構成で、企画政策課、財政課、総務課で担当する。総合的に人口減少に歯止めをかけるあるいは人口減少を緩和する施策を打ち出すために設置した。少子化対策もあるが、定住対策が大きなウェイトを占めるであろうということで、いろいろなアイデアや施策を全職員から募り、会議に諮って選んだ中から新年度の予算で事業化する予定である。

早急に取り組むべきもの、中長期的に取り組むものがあるが、すぐに結果が出ないのではないかと思われる。平成27年度中には地方が抱えている問題について国のほうからも計画を示すように言われており、計画も具体的な数値目標を掲げることになるかと思う。とりあえず26年度はこうのとりチームが中心になり少子化対策に取り組んだが、これに定住促進と市の魅力発信（シティプロモーション）を加えて事業化し、新年度の予算案発表時には示すことができると思う。

「北陸新幹線開業について」

《記者からの質問》

3月14日の開業に合わせたイベントなどの計画はあるのか？

《回答》

魚津駅の整備という一つの大きな目標があるが、完成までは時間がかかるのでそれまでの間に駅舎にできる空きスペースの利活用を検討したい。また、黒部宇奈月温泉駅からのアクセスとして乗合タクシーなども検討中である。3月14日はあいの風とやま鉄道の開業日でもあり、オープニングイベントを計画している。

「市民バスについて」

《記者からの質問》

市民バスの運行について、何か変更が予定されているのか。

《回答》

現在は、(市街地巡回ルートを除き) 地域で立ち上げたNPO法人が主体となって運営している。乗客も高齢者を中心に定着してきた。28年には労災病院も改築するのでそういった状況に合わせたより利用しやすい運行が検討されている。ただ、万が一大きな事故があった場合、個々のNPO法人での対応は難しいのではないかという意見もあり、交通事業者を含めた協議会の中で望ましい運行形態を協議していく必要がある。

「ロッテ石川投手後援会について」

《記者からの質問》

新人王となり、後援会の今後の活動計画は？

《回答》

石川投手から市民の皆さんへのメッセージをいただいております、1/5 新年賀詞交歓会で披露する。来シーズンは応援ツアーの企画などもあるのではないかと。